

220.72-29

新定
中等
習字
帖

三

中
等
習
字
帖

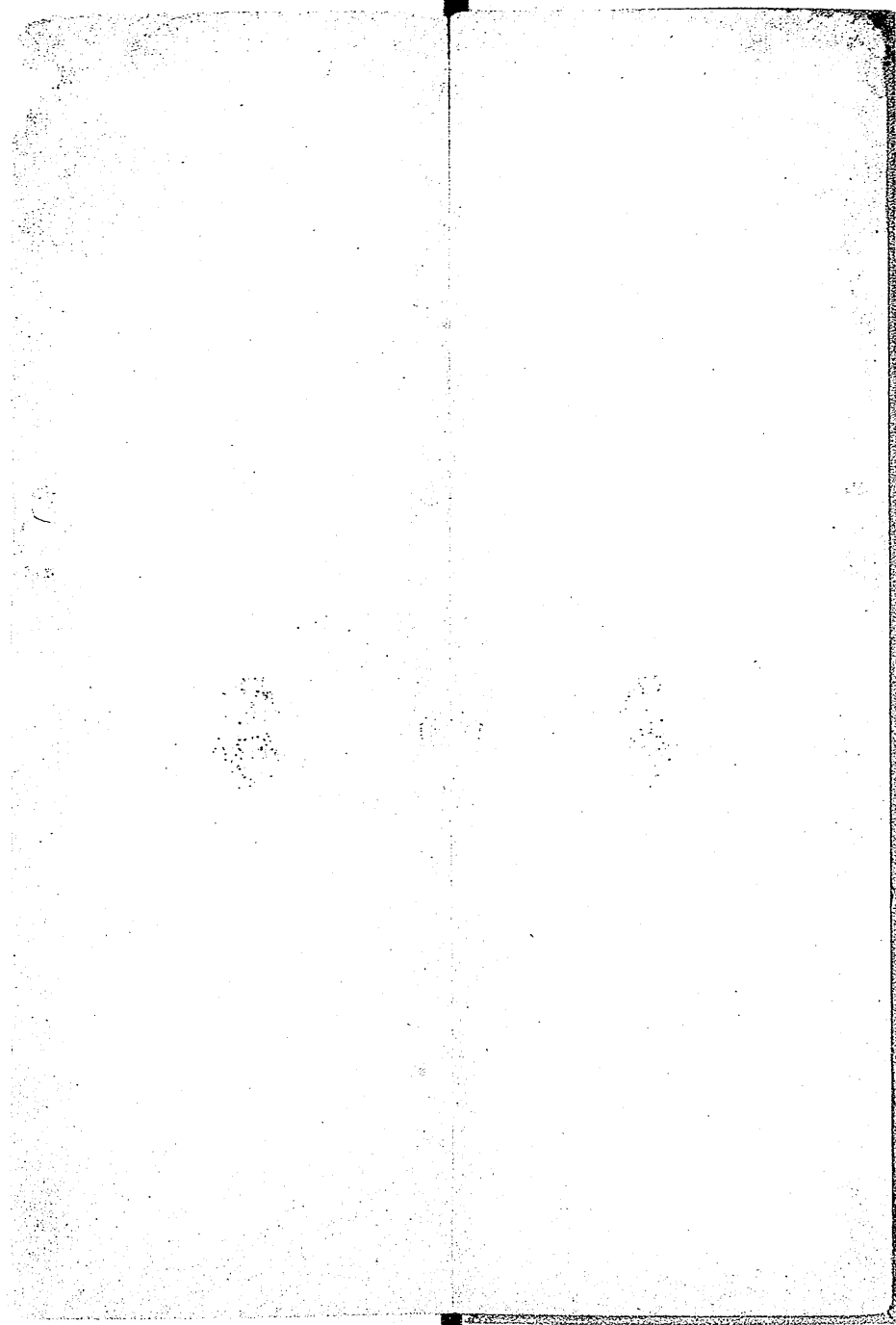
習
字
帖

| |
|---------|
| K220.72 |
| 29 |
| 3 |

K220.72

39

3



震天動地大功

待偉人始可觀

群島數十百四面環

海濱魚介藻類之產

仍為實我皇祖
皇宗之遺訓而

三ノ三

子孫吾民可
但為守

布帆駕風輪船破
浪遠航四方以爭

輪船外市高買之
業亦快哉

剛毅は柔弱となり敦厚は
軽薄となり誠實は詐偽と

なり義理は黄毫となる人情
の通弊心せずばあるべからず

履歷書

東京市麴町區富士見町二丁目六番地

平民正木文二長男

正木文太郎

明治貳拾四年壹月五日生

一明治三十四年四月富士見小學校ヲ卒業シ

三ノ六

テ東京府立第一中學校ニ入學シ同三十九年三月卒業ス

一明治三十九年四月三井物産會社雇員トナ
リテ實務ニ從事シ傍ラ夜間英語ヲ學ブ
右之通り相違無之候也

美頤の波深湛げば天神とな
り立てば岳主となり溘海浩

苗真に壯觀ならずや大人物
の起度多くこれに類す

誰將東海水濯出玉芙蓉
惜地三州盡插天八葉香

雲霧蒸大禁日月避中峯
獨立原無競自為名嶽宗

男籠山は雪を戴きて巍然として高
く如雲白根の諸山又雪の俣に峙て

り宙方に書れて残雪紅梅の習に來
桂し殆ど素とお先後するもの如し

去以一身謝尉而居就以天下
之重自任豈非盛後值遇以才

許國哉故能以赤手障江河回
天日於既墜何生壯也

月より流るゝ風楫をわたる
ごとくに庭の橋影と月光と
お抱りて踊り白ゆらぎ黒

さゝめきて空中を歩する方
はこれ無熱池の藻の習に游
ぶ魚ならざるかを疑ふ

12頁 欠

日本國も島國にて地勢は英國と同様に地産物
へばこれより國民一同大奮發にて英國の富強
に追著く極勉強を致さねばならずと存じ以美
人は全世界に領土ある故常に日没せざる國と

誇稱致居り於今や東洋の日出國と西洋の日不
没國と同聲を放弦び以も何かの因縁に可智之
兩國提携して我國民も平和の戦争即ち商業の
上に大功業を立てたきものに地産物

弱冠前後為人生大難。冥血氣未定。心
思易動。一旦流落。遂誤。此乃必也。肉親

嚴父兄。外資良師友。起居為節。出入有
度。此於修學。無忘於心。易廢業可矣。

茶番の試合茶圃の縁員就躍
り席啜え兩刀を握ふ言本あ
れば小太刀を執る牛若あり

惑は太手をひろげてむづと
担み伏するあり惑は足を搦
まれつゝ、仰向に倒るゝあり

吾本布衣躬耕於南陽苟
全性命在於亂世不求少達
於諸侯先帝不以吾卑鄙

猥自枉屈三顧吾於草廬
之中諮吾以當世之事由
是感激遂許先帝以驅馳

空にそびゆる高子種の
言家おろしに学も本も

磨きふしけむ大師代を
仰ぐ今日こそ楽しけれ

君がよはち代にハ千代にさられる
の岩ほとなりて考のむすまて

山はさけ海はあせなん世なり
とも君に二心われあらめやも

海雀丹羽心長書



明治四十二年三月六日印刷
明治四十二年三月九日發行

定價各金廿貳錢

編輯者

東京府豊多摩郡四久保四十七番地
友田宜剛

書者

東京市四谷區傳馬町壹丁目卅五番地
丹波正長

發行兼印刷者

東京市日本橋區通四丁目七番地
青野友三郎

發行所

日本橋區通四丁目七番地
(電話本局三二五八番)

文魁堂書店

不許複製

